

開館 40 周年記念特別展「チガサキコレクション」第 1 弾



あれも標本！これも標本！

— 資料から見る茅ヶ崎の自然 —

おかげさまで
文化資料館は



開館 **40** 周年 茅ヶ崎市文化資料館
Chigasaki City Museum of Heritage

主催 = 茅ヶ崎市教育委員会

www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kankou/8137/010670.html

ごあいさつ

昭和46年7月1日に、茅ヶ崎の歴史、文化、自然を守り伝えるため開館した文化資料館は、平成23年7月1日で、開館40周年を迎えました。

「茅ヶ崎」にこだわり続け、40年にわたり博物館活動を展開してきました。その間、まちの自然・歴史を調査・研究し、収集・保存してきた資料は5万点以上に上ります。その資料たちの中から選りすぐりのものを展示する、開館40周年記念特別展「チガサキコレクション」を開催いたします。

その第1弾として、茅ヶ崎の植物、動物といった自然誌の標本資料を集めた「あれも標本！これも標本！ー資料から見る茅ヶ崎の自然ー」が今回の展示会です。

戦後、宅地化などの開発により、茅ヶ崎の都市化は進み、自然環境は大きく変化し続けています。生物多様性が注目される中、本展示会が「標本」というホンモノの資料を通じて、茅ヶ崎の自然を知っていただく機会となれば幸いです。

今回の展示の企画、設営には、日頃よりフィールドワークや資料整理にご協力いただいている市民ボランティアのみなさまの多大なる貢献をいただきました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

標本ってなに？

博物館には、ホンモノを保存するという仕事があります。自然の資料は標本にして保存します。収集された標本は資料だけの意味でなく、証拠や基準にもなるとても重要なものです。

生物標本とは、個体またはその一部に処理を行い保存したものです。生きた資料を集めて標本にするため、生物の状態や研究の目的にあわせて標本にします。

当館では、茅ヶ崎にある植物、昆虫などさまざまな自然の資料を収集、保存してきました。資料を乾燥させた乾燥標本、腐りやすいものを薬液につけた液浸標本、内部を取り除いて加工したはく製標本などがあります。

一次資料と二次資料

博物館で扱う資料は、基本的に全てホンモノです。ホンモノの資料を、一次資料といいます。しかし、分野やモノによってはどうしてもホンモノを集めることができない場合があります（たとえば野鳥といった鳥獣。その際に、ホンモノを補ってくれる試料、もしくはその代わりにしてくれる資料があります。レプリカだったり、文献であったりします。それらを二次資料といいます。

ちなみに、はく製標本は一次資料で、模型・写真などは二次資料になります。今回の展示でも両方を使用しています。

はく製標本ってなに？

はく製とは、死亡した動物を生きていた時の容姿に近い状態で保存するために、肉や内

臓取り除き、綿・麻などを詰めて、防虫・防腐処理をし、生きていたときの外形を保つように作った標本のことです。

こちらに展示しているものは、骨・内臓などを取って表皮だけにしたものに、人工の骨・眼球などを入れて生きていたときの姿にした展示・鑑賞用の標本です。また、研究資料として、骨・内臓などを取って表皮だけにし、死んだときの形を保つようにして保存した「仮はく製」という標本資料もあります。

藻類ってどんな生き物？

海中や陸上の淡水で、酸素を発生させる光合成を行う生物のうち、主に地上に生息するコケ植物、シダ植物、種子植物を除いたもののことです。汽水（淡水と海水がまじり合った塩分の少ない水）、湿地、氷雪上、あるいは摂氏 40℃以上の温泉などに生ずるものもあり、生育する場所はきわめて広いです。

小型のものは、特に水中では植物プランクトンとして生息し、大型のものについては、海に生育するものは海藻と呼ばれ、潮間帯(ちょうかんたい)からある程度の深さに渡って生育します。淡水では、大型のものは少ないです。

貝類ってどんな生き物？

貝殻をもつ軟体動物のことで、主にハマグリなどの二枚貝、サザエなどの巻き貝、ツノガイなどの掘足類のことをいいます。

貝類は地球上で昆虫類に次いで多い生き物で、あらゆる地形に適応しています。昆虫が地上から空中で生息しているのに対し、貝類はもっぱら海中の、潮間帯から水深 1 万メートルを超す超深海底帯にまですみ、陸上で生息するものは標高 6 千メートルの高山から洞穴や地下水にも生息する腹足類もいます。海に生息するものは、多岐(たき)にわたる条件と地形に応じて、形態、生活様式、繁殖、呼吸方法、摂餌など多様な特徴を有します。

蘚苔類（コケ）ってどんな生き物？

蘚苔類とは、コケ植物のことです。単にコケ、またはコケ類ともいいます。世界中で約 2 万 5000 種、日本では約 2000 種が知られています。コケ植物のほとんどのものは地上か、岩または木の幹などに着生して生育します。水中生のものはウキゴケなどのわずかな種類が知られているだけです。

コケ植物の水分の吸収は、一般的には土中から行うのではなく、空気中に蒸気(じょうき)として存在する水分を利用して行います。このため、空中湿度の高い場所、直射日光の当たらない場所に好んで生育するのが特徴です。

地質標本ってなに？

道路や建物を建てる時、水道管・下水管などを地中化に埋設するときに、ボーリングとって、その場所の地質を調査するために、地中に細く深い穴を掘ることがあります。

その際に採集したものが、この地質標本です。普段は目にすることができない、地面の下にあるものたちです。

茅ヶ崎の土地の成り立ちを伝えてくれ、貴重な標本資料です。柱状図（地層の層序・岩質・厚さ・含有化石などを柱状に示した図）と見比べてみると、どの深さに、どのようなものがあるか知ることができます。

昆虫標本ってなに？

昆虫採集などによって得られた昆虫を研究、特に分類学的研究に耐えるよう保存処置をした標本です。昆虫は外骨格が発達しており、乾燥させるだけで数100年以上、研究に耐える保存性を示すので乾燥標本とすることが多いです。また、この処理で、色を損なうことなく保存できるのも特徴的です。

「モノ」を集めて「コト（記憶）」を保存する

モノを集めるということをしている、もしくはかつてしたことはありませんか？モノを集める「コレクション」は、人間の「獲得する」という本能に結びついていると言われています。モノを集める行為の起原をたどっていくと、旧石器時代にさかのぼることができると言われています。博物館の歴史の始まりは、そういった個人コレクターとそのコレクションなのです。それでは、博物館がモノを収集して保存することと、個人コレクションの違いはなんでしょうか？

一番の違いは、博物館や美術館は、社会や地域のニーズに応え、学術的な研究に基づいて、計画的かつ合理的にモノを収集し、地域だけでなく国の大切な財産として保存していることです。

そして、テーマにそって収集したものを、時間やかたち、特徴といったものに応じて並べ展示することで、新たな価値や感動を生み出します。そして博物館は、モノとそこに含まれる情報（コト）を、次世代に伝えるという社会的な役割を担っていることです。

今回の展示会の場合でいう「コト」は茅ヶ崎の自然でありであり、それを記録、保存し、次世代に伝える役割を担っていくため、文化資料館は今後も市民のみなさんと協力した活動を展開していきます。

開館40周年記念特別展「チガサキコレクション」第1弾

「あれも標本！これも標本！－資料から見る茅ヶ崎の自然－」

主催 茅ヶ崎市教育委員会

茅ヶ崎市文化資料館（担当：馬谷原武之、須藤 格）

協力 自然資料整理グループ

発行 平成23（2011）年7月

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kankou/8137/010670.html>

「あれも標本！これも標本！」
展示資料目録

2011.7.31

	科	種	備考	
1	はく製標本	ウミガメ	タイマイ	
2		ジャコウネコ	ハクビシン	
3		イヌ	ホンドタヌキ	
4		ヌートリア	ヌートリア	
5	維管束植物	アカバナ	アカバナ	準絶滅危惧(国)
6		アブラナ	シロイヌナズナ	
7		イチョウ	イチョウ	
8		イネ	オニシバ	絶滅危惧(市)
9		イネ	スナシバ	絶滅危惧Ⅱ類(県)
10		イネ	ワセオバナ	絶滅危惧(市)
11		イノモトソウ	アマクサシダ	
12		イノモトソウ	クジャクシダ	
13		イノモトソウ	ミスワラビ	絶滅危惧(市)
14		カヤツリグサ	アイダクグ	
15		キク	アカミタンポポ	
16		キク	カントウタンポポ	
17		キク	キッコウハグマ	
18		キク	セイヨウタンポポ	
19		キク	センダングサ	
20		キク	ヤブレガサ	
21		キンボウゲ	イチリンソウ	
22		サクラソウ	イヌヌマトラノオ	
23		サクラソウ	ヌマトラノオ	
24		サトイモ	ムラサキマムシグサ	
25		シソ	キセワタ	絶滅(市)
26		スギ	スギ	
27		タデ	イヌタデ	
28		トウダイグサ	ヒトツバハギ	
29		トチカガミ	トチカガミ	絶滅(市)
30		トチカガミ	ミスオオバコ	絶滅危惧Ⅱ類(国)
31		ナデシコ	カワラナデシコ	
32		ハナヤスリ	オオハナワラビ	
33		ハナヤスリ	コヒロハハナヤスリ	
34		バラ	カマツカ	
35		ヒノキ	ヒノキ	
36		ヒルガオ	ハマヒルガオ	
37		ブナ	アカガシ	
38		ブナ	アラカシ	
39	ブナ	クヌギ		
40	ブナ	クリ		
41	ブナ	シラカシ		
42	ブナ	スタジイ		
43	マツ	クロマツ		
44	マメ	イヌハギ	絶滅危惧(市)	
45	マメ	ナンテンハギ		
46	マメ	レンリソウ	絶滅(市)	
47	ミズキ	ハナイカダ		
48	ユキノシタ	タコノアシ		
49	ラン	イッケイキュウカ		
50	ラン	エビネ	準絶滅危惧(国)	
51	ラン	オニノヤガラ		
52	ラン	キンラン	準絶滅危惧(国)	
53	ラン	クマガイソウ	絶滅危惧(市)	
54	ラン	クロヤツシロラン		
55	ラン	シュンラン		
56	ラン	タシロラン	準絶滅危惧(国)	
57	ラン	ハマカキラン	絶滅危惧Ⅱ類(国)	
58	リンドウ	フデリンドウ		

「あれも標本！これも標本！」
展示資料目録

2011.7.31

	科	種	備考	
59	蘚苔類 (コケ植物)	シッポゴケ	ススキゴケ	
60		ホウオウゴケ	トサカホウオウゴケ	
61		アオギヌゴケ	コカヤゴケ	
62		スギゴケ	ヒメタチゴケ	
63		ヒナノハイゴケ	サヤゴケ	
64		チョウチンゴケ	コバノチョウチンゴケ	
65		ウロコゴケ	ヒメトサカゴケ	
66		クサリゴケ	フルノコゴケ	
67		ゼニゴケ	フタバネゼニゴケ	
68		ハイゴケ	ハイゴケ	
69		シッポゴケ	シシゴケ	
70		センボンゴケ	ナガバヒョウタンゴケ	
71		ウキゴケ	イチョウウキゴケ	絶滅危惧類(国)
72		ウキゴケ	ウロコハタケゴケ	
73		ツボミゴケ	ツクシツボミゴケ	
74		アオギヌゴケ	ツクシナギゴケ	
75		ナガハシゴケ	カガミゴケ	
76		シラガゴケ	ホソバオキナゴケ	
77		ハイゴケ	キャラハゴケ	
78		ハイゴケ	アカイチイゴケ	
79		ジャゴケ	オオジャゴケ	
80		ハリガネゴケ	ギンゴケ	
81		ヒナノハイゴケ	ヒナノハイゴケ	
82		ジンガサゴケ	ジンガサゴケ	
83		タチヒダゴケ	タチヒダゴケ	
84		ヒョウタンゴケ	ヒョウタンゴケ	
85		チョウチンゴケ	コツボゴケ	
86		オオトラノオゴケ	オオトラノオゴケ	
87		ハイヒモゴケ	サメジマタスキ	
88	ムジナゴケ	ムジナゴケ		
89	センボンゴケ	ナガバハリイシバイゴケ		
90	イトヒバゴケ	ツルゴケ		
91	チョウチンゴケ	ツルチョウチンゴケ		
92	センボンゴケ	ヘラハネジレゴケ		
93	アオギヌゴケ	ネズミノオゴケ		
94	マルダイゴケ	コリミゴケ		
95	ハイゴケ	ラッコゴケ		
96	ツヤゴケ	サクラジマツヤゴケ		
97	ハイゴケ	ダチョウゴケ		
98	ヒジキゴケ	ヒジキゴケ		
99	メナギゴケ	ミスシダゴケ		
100	クモ	アシダカグモ	コアシダカグモ	
101		アシナガグモ	コシロカネグモ	
102		アシナガグモ	ジョロウグモ	
103		ウスグモ	カタハリウスグモ	
104		エビグモ	キハダエビグモ	
105		エビグモ	シャコグモ	
106		カニグモ	ハナグモ	
107		カニグモ	キハダカニグモ	
108		カニグモ	ヤミイロカニグモ	
109		カニグモ	ハナグモ	
110		カニグモ	ワカバグモ	
111		カニグモ	ハナグモ	
112		カニグモ	ヤミイロカニグモ	
113		カニグモ	キハダカニグモ	
114	クモ	キシダグモ	イオウイロハシリグモ	
115		コガネグモ	ナガコガネグモ	
116		コガネグモ	ギンメッキコミグモ	

※実際の展示と一部異なる場合がございますことご了承ください。

「あれも標本！これも標本！」
展示資料目録

2011.7.31

	科	種	備考
117	クモ	コガネグモ	ワキグロサツマノミダマシ
118		コガネグモ	ヨツデゴミグモ
119		コガネグモ	ヤエンオニグモ
120		コガネグモ	ゴミグモ
121		コガネグモ	ヤマシロオニグモ
122		コガネグモ	ヤエンオニグモ
123		コガネグモ	チュウガタコガネグモ
124		コモリグモ	ウズキコモリグモ
125		ササグモ	ササグモ
126		タナグモ	タナグモ
127		チリグモ	チリグモ
128		ハエトリグモ	アリグモ
129		ハエトリグモ	マミジロハエトリ
130		ハエトリグモ	ネコハエトリ
131		ハエトリグモ	ヤハズハエトリ
132		ハエトリグモ	デーニッツハエトリ
133		ハエトリグモ	ネコハエトリ
134		ハエトリグモ	アリグモ
135		ハエトリグモ	ネコハエトリ
136		ヒメグモ	オオヒメグモ
137		ヒメグモ	サトヒメグモ
138		フクログモ	カバキコマチグモ
139		フクログモ	ヤマトフクログモ
140		ユウレイグモ	ユウレイグモ
141		ワシグモ	メキリグモ
142	魚類	ハゼ	オカメハゼ
143		アジ	ギンガメアジ
144		アユ	アユ
145		ウナギ	ウナギ
146		カダヤシ	グッピー
147		カワアナゴ	カワアナゴ
148		コイ	ウグイ
149		コイ	アブラハヤ
150		コイ	タイリクバラタナゴ
151		コイ	ギンブナ
152		コイ	オイカワ
153		コイ	コイ
154		コイ	ギンブナ
155		コイ	カマツカ
156		コイ	タモロコ
157		コイ	モツゴ
158		コイ	オイカワ
159		コイ	モツゴ
160		コイ	ニゴイ
161		サンフィッシュ	ブルーギル
162		シマイサキ	シマイサキ
163		シマイサキ	コトヒキ
164		タイワンドジョウ	カムルチー（幼魚）
165		タイ	クロダイ
166		ドジョウ	ドジョウ
167		ドジョウ	ホトケドジョウ
168		ナマズ	ナマズ
169		ハゼ	ウキゴリ
170		ハゼ	スミウキゴリ
171		ハゼ	ヒメハゼ
172		ハゼ	ミミズハゼ
173		ハゼ	アベハゼ
174	ハゼ	ヒナハゼ	

「あれも標本！これも標本！」
展示資料目録

2011.7.31

		科	種	備考	
175	魚類	ハゼ	ヌマチチブ		
176		ハゼ	シマヨシノボリ		
177		ハゼ	ウキゴリ		
178		ハゼ	マハゼ		
179		ハゼ	トウヨシノボリ		
180		フグ	クサフグ		
181		ボラ	コボラ		
182		ボラ	セスジボラ		
183		ボラ	ナンヨウボラ		
184		ボラ	台湾ンメナダ		
185		ボラ	ボラ		
186		ヨウジウオ	テングヨウジ		
187	爬虫類	ナミヘビ	アオダイショウ		
188		ナミヘビ	シロマダラ		
189		ナミヘビ	ヒバカリ		
190		クサリヘビ	ニホンマムシ		
191		アカガエル	トウキョウダルマガエル		
192		ヤモリ	ニホンヤモリ		
193	貝類	トウカムリガイ	ウネウラシマガイ		
194		イトマキボラ	ナガニシ		
195		ミミガイ	トコブシ		
196		イタヤガイ	ヒオウギガイ		
197		イタヤガイ	キンチャクガイ		
198		イタボガキ	マガキ		
199		マルスダレガイ	マツヤマワスレガイ		
200		マルスダレガイ	サツマアカガイ		
201		マルスダレガイ	チョウセンハマグリ		
202		バカガイ	バカガイ		
203		バカガイ	アリソガイ		
204		ニッコウガイ	シボリザクラガイ		
205		ニッコウガイ	ベニガイ		
206		マテガイ	アカマテガイ		
207			ユキノアシタガイ	モエギガイ	
208	海藻	ミル	ウスバミル		
209		アオサ	ヤブレグサ		
210		ヒトエグサ	ヒトエグサ		
211		ホンダワラ	タマハハキモク		
212		ホンダワラ	アカモク		
213		コンブ	カジメ		
214		コンブ	アラメ		
215		ホンダワラ	ノコギリモク		
216		ホンダワラ	オオバモク		
217		ホンダワラ	イソモク		
218		ホンダワラ	オオバノコギリモク		
219		ムカデノリ	ヒジリメン		
220		オキツノリ	ハリガネ		
221		ムカデノリ	トサカマツ		
222		ムカデノリ	オオバキントキ		
223		テングサ	オバクサ		
224		ムカデノリ	キントキ		
225	鳥類	タカ	イヌワシ		
226		ウミスズメ	ウミガラス		
227		カモ	カルガモ		
228		フクロウ	アオバズク		
229		フクロウ	フクロウ		
230		モズ	モズ		
231		チドリ	タゲリ		
232			キツツキ	アオゲラ	

「あれも標本！これも標本！」
展示資料目録

2011.7.31

		科	種	備考
233	鳥類	タカ	ツミ	
234		カワセミ	カワセミ	
235		キジ	キジ	
236		ヒタキ	ツグミ	
237		ヒタキ	マミチャジナイ	
238		ヒタキ	アカハラ	
239		キジ	コジュケイ	
240		その他の種子・巢など 標本資料	44点	

	目	
昆虫標本	ハチ目	ハチ・アリ
	チョウ目	チョウ・ガ
	ハエ目	
	コウチュウ目	
	バッタ目	
	ナナフシ目	
	カメムシ目	セミ・カメムシ
	トンボ目	
	アミメカゲロウ目	

地質標本	30点
------	-----